



発行者
香川県生活科教育研究会会長
高橋 英次
発行日 平成19年1月17日

No. 19

今回の内容「あきのおもちゃ大会での気付きから、
生命力をつなぐ工夫の学びへ」

1 趣旨

季節単元「あきになったね きもちがいいね」は、秋の自然の中で思う存分活動させ、自然物の特徴を生かして遊んだり飾りを作ったりすることを通して、季節の変化を感じ取ったり自然への気付きを深めていったりするとともに、季節のよさを生活に取り入れて楽しむことをねらっている。そして、季節の楽しさに浸る中で、秋が育む命に目を向かせるために感性的気付きを大切にしたい。

2 単元構成

本単元では、季節の変化を感じ取ったり自然への気付きを深めていったりする中で、秋が育む命についても気付かせていきたいと考えた。

そこで、おもちゃの材料として使った秋の自然物への振り返りを単元の終末に位置付けた。しっかりと秋の自然に浸らせ、秋の自然物で作ったおもちゃの楽しさを存分に味わうことを通して、秋に対する思いも深まって来るものと考えた。そのような活動の後で、秋の自然物を振り返り感性的な気付きを深めることで、秋が育む命について考えていくことができると考えた。

また、おもちゃ作りと生命観に関しては習得と探究を繰り返して気付きを深めた。

単元 「あきになったね きもちがいいね」 (全16時間)

問題をもつ	<p>秋見つけの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節や生活の変化について話し合い、身の回りの秋を探す。 ・ 地域の自慢の場所で秋見つけをする計画を立てる。
体験・観察	<p>満濃池周辺で秋見つけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五感を使って秋を楽しみ、秋の自然物を集める。
表現する・考える	<p>秋の自然物でおもちゃや飾りを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作りたいおもちゃを作る。 <p>習得 ドングリごまを一緒に作る。 探求 作りたいおもちゃを作る。</p>
体験・観察	<p>おもちゃ大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おもちゃ大会に向けて自分のおもちゃを振り返り、さらに工夫を考える。 <p>習得 オナモミのまとあての工夫 探求 自分のおもちゃの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作ったおもちゃで十分に遊び、自分や友だちのよさに気付く。
振り返る	<p>おもちゃに使った秋の自然物について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 続き絵を描いて秋の自然物の思いや願いを想像し、片付けの仕方を考える。 <p>習得 オナモミの続き絵 探求 自分が使った自然物の続き絵</p>

3 指導の工夫

(1) 気付きを深める思考の場の設定 習得と探求

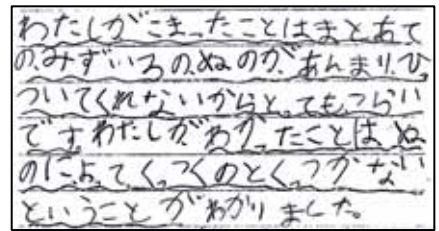
自然と関わることが大好きな子どもたちで、草花見つけや生き物見つけなど進んで活動し、友だちの発見に「わあ、すごい！」と驚いたり、自分も同じものを見つたり同じことをやってみようとしたりする。しかし、自分の活動をあまり吟味することなくすぐに満足してしまい、よりよくしていこうという意識が薄い児童が少なくない。

そこで、工夫を加えてもっと楽しいおもちゃ作りができることに気付かせ、秋の自然への気付きを深めるために、秋のおもちゃ大会を開き、自分だけでなくみんなにも楽しんでもらえるおもちゃにするにはどうすればよいかを考えさせた。オナモミのまとあてを基本教材として一緒に工夫を考え、どんなところをどのように改良していけばよいか工夫の仕方をつかませてから、自分たちのおもちゃでも工夫できないか、それぞれ自分のおもちゃに工夫を加える探求学習を行った。

オナモミのまとあてグループは、せっかく作ったまとにオナモミがうまくくっつかずに困っていたので、みんなで話し合った。

- ・ 薄い布より厚い布のほうがふわふわしていてくっつきやすいと思う。
- ・ 穴の大きい(目の粗い)布のほうがよくくっつくだろう。

みんなの意見をもとに工夫を加えてよくくっつくまとができ、おもちゃ大会ではみんなが楽しんだ。



(2) 感性的気付きを通して、知的気付きを深める

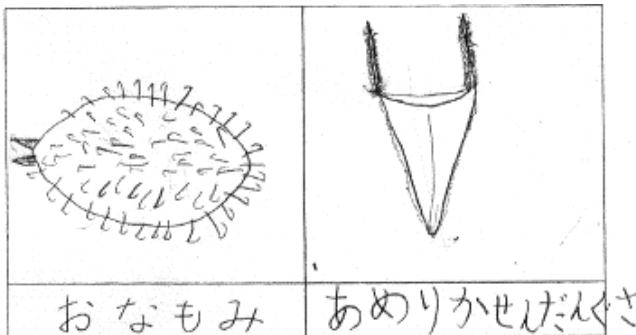
小単元 「あきさん ありがとう」 (本時 13・14時)

学 習 活 動	児童の意識の広がりや深まり	支援と評価
1 秋のおもちゃ作りを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドングリでこまやけんだまやマラカスができたよ。 ・ 落ち葉でカードゲームを作ることができたよ。 ・ オナモミでまとあてができたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋の自然物でいろいろなおもちゃが作られたことを振り返り、工夫したことを思い出させる。 ・ どうしてオナモミはくっつくのかを考えさせる。
くっつくひみつをみつけよう。		
2 くっつく実を観察する。 オナモミを虫眼鏡で観察する。 見つけたことをカードに書く。 アメリカセンダングサを観察し、カードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ とげにひみつがあるよ。とげを調べてみよう。 ・ 虫眼鏡で見ると大きく見えるね。 ・ オナモミのとげは先が曲がっているのがよく分かるよ。 ・ 先が曲がっているからくっつきやすいんだね。ほんとにとげにひみつがあったよ。 ・ アメリカセンダングサもとげの先が曲がっているのかな。 ・ アメリカセンダングサはとげの先が2つに分かれているからくっつくんじゃないかな。 ・ アメリカセンダングサにはさかさについたとげがついているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ とげを見させて、とげの先が曲がっているようだと確認させる。 ・ よく観察するために虫眼鏡を使うとよいことを教える。 ・ 虫眼鏡の基本的な使い方と注意事項を教える。 <p>T 2 虫眼鏡がうまく使えない児童の支援をする。</p> <p>評 オナモミのとげを観察して、その様子をカードに書くことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカセンダングサのくっつくひみつを予想させてから、とげの形を虫眼鏡で観察させて、くっつく工夫をしていることに気付かせる。 <p>T 2 十分に観察できない児童を支援する。</p>

<p>3 オナモミの気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさん実を付けることができ嬉しいだろうなあ。 ・ 早く何かにくっついて、いろいろなところへ連れて行ってもらいたいだろう。 ・ 柔らかい土の上に落とされたオナモミは芽が出せるけど、道路の上やコンクリートの上に落とされたら芽が出せなくなっちゃうよ。 ・ オナモミは、人や動物にくっついて、いろいろなところに運んでもらって仲間を増やしていきたいんだね。 ・ だから、とげの先が曲がっていたり小さなとげがたくさんついていたりにしてくっつきやすくなっているんだね。 ・ ドングリや落ち葉はどんな願いを持っているんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさん実が実ったとき、何かにくっついたとき、落とされたときの気持ちを、場面ごとにふきだしに書かせてオナモミの気持ちを追うことで新たな場所で芽を出し、仲間を増やしていきたいという願いに気付くことができるようにする。 <p>評 オナモミの気持ちを考えてふきだしに書くことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの表現物からオナモミの願いをより深く考えていけるようにする。
------------------------	---	--

科学的な見方（1 / 2時間）

オナモミのまとあてをしながらとげの先が曲がっていることに気が付いた児童や、図鑑や本によって知識として知った児童もいたが、実際に虫眼鏡を使って観察することで、自分の目でしっかりと事実を確かめようとしていた。



きょうおなもみをかんさつしました。さきくまがていしましたあめりかせげだんぐさはエほんのさきしがありませんでしたかそのエほんのさきにおなもみのさきととげがいらはいあたのでくつこのかわかりました。だからおなもみもあめりかせげだんぐさもおなじくらいさきがあることがわかりました。

感性的な気付きから、さらに知的気付きに（2 / 2時間）

その後、くっついたオナモミの気持ちを考えるために続き絵を描くことを通して、いろいろなところで仲間を増やし命をつないでいきたいという願いに気付くことができた。そして、もう1度オナモミのとげに振り返ってさらに気付きを深めていくことができた。



豊かな感性を育む読書活動（読書の時間の読み語り）

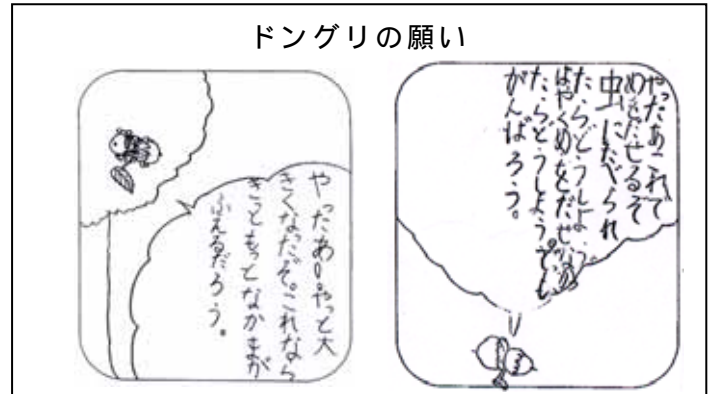
秋の自然や自然の生命についての気付きを深めていけるように、朝の読書の時間に読み語りを行った。中には1年生には難しいと思われる本もあったが、子どもたちは一生懸命聞き入っていた。



(3) 習得と探求

オナモミを基本教材として、他の自然物の願いも考えた。

これらのことを通して、命をつないでいきたいという植物の願いに気付き、楽しむだけであった秋の自然物に対する見方が深まり、活動後の片付けの仕方を考えることができた。



あきさん ありがとう

おなもみさんのおかげで、たのしいまとおてができました。さいごはつちのなかにうえてあげるからね。おなもみさんのさきがまわっていたからたのしいまとおてができた。うれしいでおなもみさんほんとうにありがとう。



どんぐりさんのおかげで、よくまわるとどんぐりがまわってきたよ。どんぐりさんかいたので、どんぐりにおもしろいおもちゃがつくれる。たんとすていよくつたどんぐりがまたいせつにするよ。

4 成果と課題

(1) 成果

児童は観て触って得られる情報を逃すまいとオナモミやアメリカセンダングサのとげの様子を一生懸命観察した。そこからとげの秘密を探り出したが、運ばれるオナモミの気持ちを想像することを通して、その秘密を「命をつないでいきたい」という願いと関わらせて気付きを深めることができた。科学的な見方と感性的な気付きをつなぐことにより知的な気付きがさらに深まっていくのだと実感した。

(2) 課題

児童の実態として、感性的な気付きも知的な気付きも教師からの働きかけがないと浅いままに終わってしまう。振り返り学習をすることでその気付きを深め、次の活動へとつないでいくことができる。これからも振り返り学習により、児童の力を付けていきたい。